平成２２年１０月の解説（府県天気予報）

【１０月の天候状況】

上旬は、全国的に天気が数日の周期で変わりました。中旬は、前半は前線や低気圧の影響で、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。後半は東、西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、北日本では低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美では曇りや雨の日が多く、20 日は台風第 13 号の湿った気流と前線により奄美地方では記録的な大雨となり、甚大な災害が発生しました。下旬は、はじめは前線の影響で東日本から沖縄にかけて曇りや雨となりましたが、北日本では高気圧に覆われ晴れました。中頃は低気圧の影響で北日本から西日本は雨となり、その後は冬型の気圧配置になって強い寒気が南下したため、北日本では初雪を観測した所もありました。旬の終わりは台風第 14 号が日本の南岸に沿って北上し、東日本の太平洋側を中心に大雨となり、大荒れの天気となった所もありました。

月を通しての日照時間は、北、東日本の日本海側をのぞき全国的に平年よりかなり少なく、西日本と沖縄・奄美では 10 月の月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。降水量は沖縄・奄美で平年よりかなり多くなり、10 月の月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。東、西日本の太平洋側では平年より多くなりました。気温は全国的に平年より高く、東、西日本ではかなり高くなりました。

【１０月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で 85%、明後日予報では 82%とそれぞれ例年(注) より 4 ポイントと 5 ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報はほぼ全国的に高くなり、東北、東海、近畿、中国、九州地方では 5 から 13 ポイント高くなりました。明後日予報もほぼ全国的に高くなり、東北、東海、近畿、中国、四国、九州北部地方では 5 から 11 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より 0.2℃から 0.3℃小さくなり、全国平均では 0.2℃小さい 1.6℃でした。最低気温の予報誤差は大半の地方がほぼ例年並みとなり、全国平均では例年並の 1.3℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【１２月の天気予報の利用にあたって】

雷は夏場に多いというイメージがありますが、12月になり冬型の気圧配置が増えてくると、日本海沿岸では雷が発生しやすくなります。この冬の雷は夏より1回の電気量が多く、落雷すると被害が大きくなりやすい特徴があるといわれています。また雲の間だけで発生する雷と比べ、落雷する雷の割合も夏より大きいです。気象庁では数時間先を予報する雷注意報と、1時間先までの詳細な雷の分布を予報する雷ナウキャストを提供しています。雷の発生が予想されたら、早めの対応をお勧めします。